

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2015年1月9日

今月のトピックス 「異次元水準の長期金利」

異常も長く続けば恒常になる、まさに長期金利がその状態にあると言っても過言ではないでしょう。史上最低水準である長期金利 0.315%の更新が視野に入りつつあるからです。2003年6月11日、長期金利は 0.435%という最低水準に低下しました。異常値まで低下した金利を下回することはよもやないだろうと高をくくっていましたが、2013年4月4日の日本銀行の異次元緩和であっさりと下回ってしまいました。先に述べたように 0.315%が現在の史上最低金利ですが、2014年12月中旬には 0.345%まで低下しています。その差は実に 0.03%に過ぎず、早ければ2014年中、遅くとも2014年度中（2015年3月31日まで）に下回るといふ予測が増えています。しかも史上最低を下回る上、0.2%台に突入するという予測すら絵空事ではなくなりつつあります。

長期金利は長期国債（10年）の金利を表していますが、何と10年の金利が短期物、正確には1年物定期預金金利を下回るといふ前代未聞の状況が起こり始めているのです。預金金利を意識している人は「そんな馬鹿な!」と思われるでしょうが、預金金利は今から20年前の1994年10月に完全自由化されていることから、銀行が好き勝手に付けていいことになっています。自由化後、一時期高い預金金利を提示している銀行＝危ない銀行というレッテルを貼られていましたが、21世紀に入ってからは戦略的に高めの金利を提示するようになってきました。中でも、西日本の地方銀行のインターネット専用支店の定期預金が高めの金利を出しているケースが多いことから「西高東低」と筆者は言い続けています。2014年12月下旬（2015年1月でも変更はないでしょう）、1年物定期預金の高めの金利 0.40%を提示しているのは、荘内銀行わたしの支店「わたしの支店専用定期」、トマト銀行もたろう支店「スペシャルきびだんご定期」、香川銀行セルフうどん支店「超トッピング定期預金」、愛媛銀行四国八十八ヶ所支店「だんだん定期預金」などです。地方銀行は人口減による預金の減少に対応するため、県外から預金を集めようとインターネット支店（日本全国対象）の金利を高くしているのです。ちなみに、メガバンク始めとする大多数の銀行の1年物定期預金金利は 0.025%です。

図は、2014年メガバンク、地方銀行のインターネット支店、長期金利（財務省HPの金利なので正確には長期金利ではない）を比較したのですが、12月に長期金利が地方銀行のインターネット支店の1年物定期預金の金利を下回ったことが分かるでしょう。冒頭に述べたように、今は異常ですが長く続けば恒常に変わります。この逆転が何を現すかといえば、資産運用において国債を購入する大意は全く存在しないことになり、長期金利より高い定期預金を見つけて運用した方が得になるということになります。財務省は2015年1月から物価連動国債を個人が投資できるように制度改正しますが、物価も低下傾向にあり、また長期金利が1年物定期預金を下回る状況でどうやって個人が国債を購入するよう促すのでしょうか。それとも個人など端から相手にせず、機関投資家、ひいては日本銀行が購入してくれるので問題ないと考えているのでしょうか。市場原理を無視して長期金利を低下させているしっぺ返しがないことを願うばかりです。なお、1年物定期預金金利は、日本全国の全ての銀行を調べたわけではないため、さらに高い金利を提示している銀行が存在する可能性があることを付け加えておきます。

2015年も皆様により情報を提供できるように頑張っまいります。本年も昨年同様、何卒よろしくお願いたします。（執筆：2014年12月24日）

2014年預金金利・長期金利の推移

